

## 1 研究主題

### 自身の考えを豊かに表現することのできる児童の育成 ～協働的な学びを通して～

## 2 主題設定の理由

### (1)学校教育目標から

本校では、知・徳・体のバランスのとれた教育を推進し、智(やる気)・健(げん気)・愛(やさしい心根)をもった子どもを育てるために、学校教育目標を「人間性豊かに生き抜く児童の育成」と設定している。

このような子どもを育てるためには、各学年の子どもの基礎・基本となる学習内容や技能、学び方を、児童自らが主体的に身につけるための取り組みを行うとともに、人とのかかわりの中で、自他のよさを生かしながら、自分で考えて行動する力の育成が不可欠である。

### (2)子どもの実態から

2020年度の取り組みの結果から、

「考えることが楽しい」と答える児童 77.2%(児童アンケート)

「自分の考えは認められている」と答える児童 81.6%(児童アンケート)

これらの結果より、以下の課題が見受けられた。

- ・授業の思考する場面において、苦手意識をもっている。
- ・思考場面における手立てが適切ではなかった。
- ・好奇心をかき立てる「問い」を児童自身がもつことができなかった。
- ・授業において、児童自身の考えが認められていると実感されなかった。

### (3)研究の経過から

2020年度は、「福山 IOONEN 教育」を受け、理科、体育の授業を中心に取り組みを進めてきている。また、「児童主体の学び」が行われる授業を目指して、日々の授業や校内研修を行ってきた。校内研修では、「児童が主体的に学ぶために、単元をどのように構成するか」という視点で、教材研究を行った。日々の授業では、カリキュラムマップを活用し、他教科と関連を持たせたり、単元のつながりや時期を考慮して、1年を見通した単元構成を行ったりしてきた。理科と体育では、学年を越えて見通しが持てるように、年間授業計画も作成した。

2021年度は、「福山 IOONEN 教育」の見直しや昨年度の課題を受け、「自身の考えを豊かに表現することのできる児童の育成～協働的な学びを通して～」という研究主題を設定した。「協働的な学び」を通して、主体的に課題を解決することで、探求的な学習の質を高め、実際の社会で活用できる資質・能力を高めるべく、研修等では、「協働的な学び」について教職員間の共通理解を図ったり、言語活動を充実させる方法を共有したりすることで本年度の研究主題に迫る。

また、昨年度までの研究教科である理科・体育を基本的な研究教科と位置づけ、その教科の「特性」や「系統性」に着目し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」これら三つの要素をバランスよく育成する。理科・体育で身に付けた力と教科横断的に身に付ける力を相互に関連付けながら児童一人一人の資質・能力の育成を目指す。一方、今年度においては「協働的な学び」に主眼をおいた研究を進めるが、次年度以降は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還の重要性についても議論の余地がある。これらの研究を進めることで、児童一人一人の「学びの最適化」を目指す。

### 3 めざす児童の姿 21世紀型“スキル&倫理観”を受けて

育成する力 (21世紀型 “スキル&倫理観”)		課題発見・ 解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ 精神 (自己効力感)	思いやりと 感謝の心 (地域貢献)
(二十一世紀型”スキル&倫理観”を身に付けた めざす子ども像 当該学年の児童・生徒の姿)	中学校	よいよく課題を解決し、自分の生き方に生かす。	互いを認め、よりよい人間関係を構築する。	自分に必要な挑戦を選択してやってみる。	人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる。
	高学年	解決に向けて、主体的に選択、判断する。	人の考えや気持ちを受け入れ、自分の意見や気持ちを表現する。	結果の理由を次に生かしてやってみる。	人や地域のためになることを考え、行動する。
	中学年	解決への方法を考え、見通しを立てる。	人の気持ちを考え、自分の意見を、理由をつけて伝える。	得意なこと苦手なことやってみる。	人や地域のためになることを考える。
	低学年	もんだいにきづき、かだいをたてる。	じぶんのかんがえや、きもちをいう。	もくひょうをもってやってみる。	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ。

### 4 めざす授業の姿・研究の柱

- ①学ぶ意欲や、知的好奇心が発揮できる授業
- ②対話により、学びを深める授業
- ③児童が、安心して多種多様な考えを発現できる授業
  - ・児童が協働的に学ぶことで、深い学びにつながっている授業であったか。
  - ・児童の協働的な学びに対する手立ては効果的であったか。

### 5 取り組みの検証方法

- ・各教科テスト 得点率 80%以上の児童の割合
- ・児童アンケート 「考えることが面白い」「自分の考えは受け入れられている」